大人が絵本を
第51回 子どもの歯医者が作った

司書・読書アドバイザー　安藤　宣子※
小児歯科医師　濱野　良彦※※
※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ（福岡市）
※※ 医療法人元気が湧く　理事ファウンダー

ピカピカの１年生！

ビブリオキッズ＆ベイビーが、こどもの歯科in大橋の隣で産声をあげた2012年６月２日、一番乗りでビブリオメンバーになったのは、小学３年生と幼稚園年少、生後４か月の３姉妹でした。このとき赤ちゃんだった三女Hちゃんは、１歳後半にもなると、２人のお姉ちゃんに手を引かれて３人だけで来館し、姉に挟まれた真ん中にちょこんと座って、静かにアンパンマンを読む姿が毎週見られ、ビブリオのアイドル第１号となりました。そんなHちゃんも今年、ピカピカの１年生になり、お友だちと来館するようにもなりました。

本誌の連載をスタートさせてから、小児歯科医療に携わっておられる皆様方とお付き合いをさせていただいて、早４年の月日が経ち、歯科診療における絵本活用の機会と方法の幅を広げているところです。

創館と共にスタッフは全力で走り続けたものの、来館利用者は思うように伸びず、よちよち歩きを抜け出せない日々が５年続きました。そのような状況でも我々は、利用者をただ待ち受けるだけの態勢に留まることなく、館外で催されるイベントに参加したり、地域の公民館に出向いたりして、積極的なアクションを続けてきました。この実践が芽吹いたのは、節目となる５年目の年で、発達過程のただ中にいる子どものように目覚ましい成長をみせたのです。

福岡市南区の大橋という地区で、小児歯科医院が運営する親子ライブラリー開館６年半の歩みと、今を報告します。

よちよちあるきの５年間

ビブリオキッズのこれまでの来館者数を、年度別月別のグラフ（下図）に示してみると、一目瞭然、その運営実態が誰しもに読み計られてしまいます。創館から４年間、月毎の来館総数は500人ラインを下回ったところで、見事なまでに、ひしめきあっています。１か月の来館者が500人以下ということは、一日平均にするとだいたい13.5人～16人ということで、一日10人を割ることもありました。１～２年目はものめずらしさも手伝って、一定数を維持できていたのですが３年目ともなるとビブリオブームが下火になったのか、来館利用者のもっとも少ない記録年となりました。

どんぐりの背比べ状態から抜け出し始めたのは、５年目の2016年です。団子状から抜け出したかな（10月）と思えば、また引き戻され（11月）、そして、この年、ついに低迷状態から抜け出ることに成功したのです。誕生してから５年目のことで、やっと地域の親子、家族に認めていただけたのだと感慨深く受け止めました。ビブリオが地域に認められたことを証明しているのは、６年目の2017年度の来館者数値（赤茶線）です。一年間を通して毎月600人超を推移し、今年2018年は、前年平均をさらに上回る賑わいを見せており、８月は毎日が嬉しい悲鳴でクタクタになるほどでした。誕生して初めて、１か月の利用者４桁数値が視界に入ってきたのです。

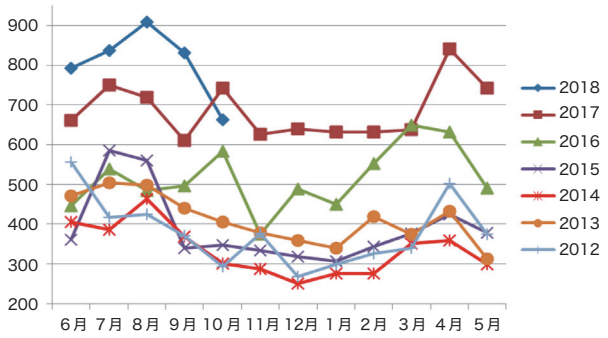

図　ビブリオキッズ来館利用者推移（年度別月別総数）

手にするときは！
「絵本と図鑑の図書館」奮戦記

企画　濱野　良彦
構成　木須　信生※※※
※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ（福岡市）

尺取り虫のように「ひとあし　ひとあし」

『スイミー』で著名なレオ・レオニ氏の作品に、『ひとあし ひとあし』があります。「なんでもはかれるしゃくとりむしのはなし」と付けられたサブタイトルのとおり、色々なものの長さを測ることのできる特技を持っているため、その賢さでもって様々な難から逃れるのですが、ナイチンゲール（鳥）の無理難題を受けて窮地に追い込まれ、しかし知恵を使って危機を乗り越えるというストーリーです。尺取り虫が、自分の命を守るため、ひとあしひとあし逃げたように、私たちは地域住民に信頼してもらうために、ひとあしひとあし、実践を行ってきました。その積み重ねが実となり、形となるときが訪れたのです。

『ひとあし ひとあし』
レオ・レオニ 作
谷川俊太郎 訳
（好学社）

本書に共感する点がもう一つあって、鳥たちは自分の自慢の身体部位を、尺取り虫という言わば“ものさし”で計ってもらい、数字の表れで自己満足感を高めるのですが、その深部には、尺度では測れない価値があるというメッセージが含まれているところです。この考え方こそ、ビブリオキッズそのものなのです。来館者数が伸び、地域の親子の安全・安心基地として希求されたことは紛れもない事実と言えましょう。しかし、来館者数や会員登録者数という尺度では計ることのできない大切な役割を担っていると考えています。

ビブリオキッズは地域の応援隊長！

小児歯科医院である「医療法人元気が湧く」が親子ライブラリーを設立した当時の願いは、「地域の子育て支援を担うこと」で、「育児中の保護者と子どもに、絵本と図鑑と育児書と、それらを読みあう空間を提供し、安心・安全な地域づくりに努める」「ケータイやゲーム、電子メディアの負の影響から子どもを守り、育児環境を良好に保つ絵本を通して、健康な地域づくりに努める」「子どもの人権を守るために、絵本を通して食機能と口腔機能支援、ひいては健康な暮らしの支援に努める」ことでした。すなわち、数値などの尺度では表すことのできない活動です。

この活動は、自館内だけでなく、小児歯科医院や他団体の催事など、通常「おはなし会」のイメージがない空間においても、おはなし会と読書相談会を実践し、広範囲な地域社会に対して幸せをもたらす絵本活用の方法を提案する育児支援も役割としています。南区大橋より６kmほど西に位置する城南区別府の小児歯科医院でも定期的なおはなし会を行い、その地域の育児支援にも努めているところです。

ひとつ、お母様に信頼していただくこと！

KiDs歯科べふの院内おはなし会で出会った家族との間に、お互いの成長につながる交流がありました。昨年５月のおはなし会に初めて参加したＮちゃんのお母様は始まる前に、「じっとしていられない娘で、動き回ると思うのですが…」と声をかけて来られたので、「お子様は自由にさせてあげて、ただ、お母様は絵本を楽しんで下さい」とお伝えしました。

絵本体験の少ない小さな子どもたちにはごく当たり前のことなので、院内おはなし会を立ち上げた当初は、絵本を聞いているのは大人だけという光景もめずらしくはありませんでした。ライブラリーを併

設していない別府医院で、患者さま又は別府地域の親子を対象としたおはなし会は、ビブリオの参加者と背景が異なり、絵本体験やおはなし会参加の未経験者が多くいました。絵本によるスキンシップ遊びや手遊びを恥ずかしがるお母様が多かったのです。そんな親子にも、ひとあしひとあし近づき、絵本の楽しみをお伝えしてきました。

別府医院で初めて出会う親子ということは、信頼関係のない集団ということで、まずはお母様方に安心感を与えることが大前提で、親子を引きつける絵本読みとコミュニケーションを常に心掛けています。

ふたつ、モットーは傾聴と寄り添い！

さて、まもなく２歳になるＮちゃんは、おはなし会が始まっても「じっとしていない」を表すように、あっちへ走ってゴトゴト遊び、こっちまでピョンピョン跳ね、おはなし会を催している円形の弧を描くようにグルグルと自由奔放に遊び回って、お終いまで１度も座ることなく、絵本に興味を示しませんでした。「おはなしお姉さん」として経験豊富な私にしても、初めてのケースです。

おはなし会終了後、お母様は胸に抱えていたものを一気に吐き出されました。１歳になったとき、そろそろと思い絵本を読んでみたけれど全く興味を示さなかったので、まだ早いんだと絵本読みを止めたこと、先輩ママに尋ねると「そんなに急がなくていいよ」と複数に言われ安心したこと、子どもとはそのうち自然と絵本を楽しむ時期が訪れるものだと思い込んでいたこと、２歳を間近にしても反応が変わらないので公共図書館のおはなし会に参加してみたら、周りのお友だちと明らかに行動が違うことに気付き「どうしよう」と我に返ったこと、そんなときに院内おはなし会の案内を受け、「もしかしたら何かのヒントをもらえるかも」と小さな期待をもって参加したことなど、司書との会話の中でひとつひとつ整理していきました。

このように、聴くこと、共感すること、方法論を提案すること、いつでも寄り添い、支援の手を差しのべている姿勢を伝えること、これらが絵本による育児支援のモットーとしていることです。

みっつ、個性を伸ばす絵本読みの提案！

ビブリオ会員のお母様の中には、周りのお子様とわが子を比べて、「絵本をちゃんと聞いていて良いなあ」とか、「うちの子はいつになったらアンパンマン以外の絵本を読ませてくれるんだろう」など、親御さんの理想とする姿が声に漏れ出る方もいます。そんな心のような声も私たち司書は逃すことなく、読書の発達段階と読書興味の発達段階[1)2)]を軸に個性のお話をして、目の前のお子様に合った絵本を提示して読みあいを行います。すると、お母様の知らなかったお子様の一面を発見し、それだけで絵本による育児の方向性をつかんで、お子様と楽しく向き合い直すのです。

Ｎちゃんのお母様にも同様に、類似ケースをお話しながら、親御さんの関わり方、読み方などをアドバイスしました。１時間の読書相談でお母様は、やっと出会えた支援の窓口と判断されたようで、初対面のその日の午後には大橋のビブリオキッズまで、生後６か月の妹とおばあさまを伴ってやって来ました。

よっつ、司書の知識・技術・経験を地域にフィードバックするアセスメントサービス！

Ｎちゃん親子と出会ったその日、私の業務内容は、院内おはなし会開催と、Ｎちゃん親子との３時間に渡る読書相談対応の２本柱でした。「育児環境を良好に保つ絵本を通して、健康な暮らしの支援、地域の子育て支援に努める」活動そのものです。

午前の半日を「子どもの人権を守るために、絵本を通して食機能と口腔機能支援、ひいては健康な暮らしの支援に努める」活動を別府院内で行い、午後

ビブリオベイビー Bibli O Baby
連絡先　福岡市南区大橋 3-2-1 2F
絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ
TEL 092-557-3272　URL http://bibliokids.jp
E-mail
安藤：bibliokids.baby1@gmail.com
濱野：hamano@genkigawaku.com
木須：nobuokisu@gmail.com

はそのうちの１家族へのマンツーマン支援に、知識と技術と経験を総動員して全力で当たりました。これが育児支援における「アセスメントサービス」で、対面している親子の情報を収集・分析して、良好な育児環境を保つために絵本が解決できる課題を把握し、提案するのです。つまり、数字という尺度では計ることのできないビブリオキッズの大切な役割というわけです。この支援は、すぐに結果を得られるものではないのです。

いつつ、地域の家族に幸せの種をまく！

「絵本は何歳から？」との疑問を持たれているお母様方に共通しているのは、赤ちゃんへの絵本の読み方が分からないことです。だから“新米ママ”なわけで、ビブリオライブラリアンは新米ママにとって、「絵本活用の育児書」換わりなのです。

そんな新米親子と『ごぶごぶ ごぼごぼ』を読みあうと、初めて会ったばかりの赤ちゃんがニコニコし、その笑い顔をみたお母様が「すごい！」と感嘆して、親子が笑顔であふれるのですが、この幸福な笑顔こそが私たちの活動源であり、活力源そのものなのです。このように、支援が直接的な反応で返ってくることもありますが、一方で、その日の支援がすぐには結果や評価に結び付かない活動もたくさんあります。Ｎちゃんのような、育児のお悩みが主体の読書相談がそうですし、また、親子との信頼関係を築くまでに時間を要することは当然のことです。

Ｎちゃんの場合は、お母様だけでなく、家族全員の信頼を得られたことを示してくれるかのように、ビブリオ会員になったその日から、２週間に１度のペースで、おばあさま又はお父様と必ず４人で来館して、その間の家庭での様子や、絵本を少しずつ聞くようになったその姿をコンスタントに報告しては、次のアドバイスを求めるようになりました。

妹が生まれてからは、下のお子様に手を取られていたことも気にされていて、ビブリオではＮちゃんとの時間を大事にしたいと話されたので、読書相談の後は、母と子の時間を見守るようにもしています。お帰りのたび、「今日は初めて５冊も読めました」（７月）、「初めて１時間以上いました」（10月）と、Ｎちゃんの成長に顔をほころばせるお母様もまた、たくましく大らかで、愛に満ち溢れた母親になられていく姿が確認でき、私も司書としての経験値を高めさせていただいていると感謝の気持ちでいっぱいです。

Ｎちゃん家族との出会いから半年、達成感までは及びませんが、手応えを感じています。

これからも、ひとあし ひとあし！

「すぐれた絵本には、人間が人間であるために、いちばん大事な情緒と想像力と知恵が、いちばん単純な、いちばんわかりやすい、いちばん使いやすい形でこめられています」とは、『しょうぼうじどうしゃじぷた』を代表とする多くの創作絵本の作者である渡辺茂男氏の言葉で、「幼い子どもに絵本を読んであげたからといって、すぐに成果が目に見えるものではありません。幼い心に種をまく仕事だから」と続けています[3)]。絵本も、絵本を介した育児支援もすぐに成果が目に見えるものではないのです。

ビブリオキッズが創館して５年目にやっと芽吹き、今、少しずつ私たちの存在意義が目に見え始めてきました。これからも、ひとあしひとあし、地域を広範囲に拡大させながら、お子様をもつ家族に幸せの種をまく活動を継続していきます。西から風に乗せて全国に。

文献
1）坂本一郎：現代の読書心理学，金子書房，東京，1976, pp.117-144.
2）野口武悟：読書興味の発達段階モデルについての再検討，発達研究 26, p.103-120, 2012.
3）渡辺茂男：心に緑の種をまく，新潮社，東京，1997, pp.36-42.